

市町村における保健と福祉の連携

—保健サービスとヒューマンサービスのあり方に関する研究—

研究協力者：高橋重宏*1

協力研究者：庄司順一*2, 安梅勅江*3,

益満孝一*4, 中谷茂一*5, 小椋優子*5

要約：本研究は市町村における保健と福祉の連携を促進するための諸課題を明らかにしようとするものである。第2年度の今年度は、保健サービスとヒューマンサービスのあり方に焦点をあてリサーチを実施した。ヒューマンサービスとは、ソーシャルワーク系ヒューマンパワー（ソーシャルワーカー、児童福祉司、家庭児童相談員、児童指導員、児童厚生員、民生委員児童委員、主任児童委員など）、ケア系ヒューマンパワー（保母、保育ママなど）、心理系ヒューマンパワー（臨床心理職など）によって提供される子どもと親のウェルビーイングの実現をめざす子ども家庭サービス(child and family services)をいう。具体的には、「子どものためのサービス」、「親のためのサービス」、「親を通した子どもへのサービス」があり、サービスの種類としては①促進サービス(promotion)、②予防サービス(prevention)、③支援サービス(support)、④援助サービス(help)、⑤保護サービス(protection)などのプログラムが考えられる。

これらのサービスを保健・医療系ヒューマンパワー（医師、保健婦、助産婦、看護婦）とどう連携しつつ提供するかが現状の課題となっている。

そこで、本研究では、評価の高い実践事例（①武蔵野市立0123吉祥寺、②大阪府東大阪市児童部児童課中福祉事務所家庭児童相談室）の検討、さらに、保育所における「社会的に援助の必要な子どもの調査」を実施し、これからの課題を考察し、提言を行った。

見出し語：ウェルビーイング(well-being)、保健と福祉の連携、保健サービス、ヒューマンサービス(human services)、子ども家庭サービス(child and family services)、子どもの権利擁護サービス、子どもへの不適切な関わり(child maltreatment)

*1 駒澤大学・日本総合愛育研究所

*2 日本総合愛育研究所

*3 国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所

*4 日本総合愛育研究所

*5 駒澤大学大学院

研究方法：ソーシャルワーク、心理、保健、助産、保育関係の研究者を中心に研究班を組織し、それぞれの分野からの現状報告、注目される実践事例等の情報交換を行い研究協議を重ねた。さらに、昨年度に引き続き保育所で「社会的に援助が必要な子ども」についての事例を収集・検討し、調査票の作成、調査の実施、解析を行った。

研究結果：

1. 評価の高い実践事例

1-1 武蔵野市立0123吉祥寺の実践沿革：

1987年子ども数の減少により私立幼稚園が廃園されることになった。地域住民から存続の要望があり、市が用地を買収し、市の長期計画で『豊かな市民生活を実現する施策』の中の「乳幼児向け事業」として位置づけられた。1991年検討委員会の報告書が提出され、1992年1月に「武蔵野市子ども協会」が設立、「武蔵野市立0123吉祥寺条例」、同施行規則が制定され、11月10日武蔵野市子ども協会が武蔵野市より管理運営を委託され事業が開始された。

0歳から3歳までの親子ならば、誰でも、いつでも、何時間でも無料で利用できる日本で最初の子育てコミュニティである。1995年には1日の利用者が100組に達している。武蔵野市には、0123歳児は約4,000人いるが、約1,500人が利用登録をしている。

施設の機能：

①子どもたちが自由にのびのびと遊べる

場

子どもたちが自由に動きまわれ、子ども自身の興味に従って自発的に遊べる場。その中で、親子の関わり合い、子ども同士の関わり合いなど人とのふれあいが豊かになるよう援助する。

②親同士の交流・学習の場

子どもたちの遊びを通して、親同士が自由に気軽に交流し、子育てについて学び会う場。また、親子で参加できるさまざまなつどいや、講演会、講習会を実施する。

③子育てについての相談に応じる場

子育てについて医者や教育専門家が相談に応じるとともに、さまざまな日常的な相談にはスタッフが応じる。また、親同士が相談しあえるようにスタッフが応じる。

④子育てに関する情報を提供する場

子育てに関するさまざまな情報を館内の掲示板や図書、資料などにより提供する。親同士の情報交換の掲示板も設ける。

施設の運営：

武蔵野市子ども協会が市から運営を委託されている。現在は、市からの派遣職員1名と協会職員4名（幼稚園教諭、保母、ソーシャルワーカーなどの経験者）計5名で運営されている。

調査では、回答者の87.1%（94人）が「子育ては楽しい」と回答している。だが、回答者の81%（75人）は「近隣や地域からの援助はない」、この武蔵野市立0123吉祥寺が親にとっての子育てコミュニティとして機能していることが「子育ては楽しい」という回答の高さにつながっていると考えることができよう。

保健と福祉の連携:

乳幼児の育児や健康について相談に応じている。これは武蔵野市健康課の事業を0123吉祥寺において実施しているものである。市内の小児科の医師による個別相談とともに、医師を囲んで利用者が語り合うものである。平成6年度で年間14回開催し、合計87人の母親が参加している。

1-2 大阪府東大阪市児童部児童課中福祉事務所家庭児童相談室の実践

大阪府東大阪市児童部児童課中福祉事務所家庭児童相談室では、「ひよこ教室」という名称で「母と子の教室」を実施している。

目的:

①母親に対して、母子関係を強化・発達に応じた遊びやしつけ等の養育援助・育児不安の緩和。②母親同士の連帯感の養成。③児童に対して、家族以外の人間との交わりや遊びの経験を広げることを通じ心身の成長を援助する。

対象:

1. 1歳半健診の要フォロー児を主とした1歳半から2歳児の幼児と母親。
2. ①心身の発達の遅滞、あるいは問題行動が見られる児童。②育児不安、あるいは適切な育児方法がわからず、育児援助を必要としている母親。③近所に子ども集団や遊び場が乏しい等環境面に問題が予想されるケース。④以上の①・②・③を総合的に判断し、継続的に母子指導が

必要とされるケース。

スケジュール:

- ・Ⅰ期5月から7月
- ・Ⅱ期9月から11月
- ・Ⅲ期1月から3月
- ・週1回中保健所の講堂で開催
- ・時間は10:00 am～11:30 am

スタッフ:

家庭児童相談室相談員(ソーシャルワーカー)1人、心理職1人、保母1人、保健婦1人。

プログラム:

親子遊び、遊技、体操、おやつ、保健婦による指導、個別相談など。

特徴:

①親や子どもに問題があるからといった告知はしない。親と子のための「ひよこ教室」がありますよという案内を出し、自然な形で参加を募る。②最初、母親子どもともに不安な様子であるが、専門家の援助により徐々にグループに適応していつている。③また、母親同士の友達ができ、プログラム終了後も相互の支え合が芽生えている。ある意味では、セルフ・ヘルプ・グループの育成にもつながっている。

1-3 考察

1) 武蔵野市立0123吉祥寺は、廃園になった幼稚園を基盤に整備された子育て広場のプログラムである。伝統的な問題が発生してから事後処理的な対策を講じていくウェルフェア型ではなく、まさに、子どもと

親のウェルビーイング(人権の尊重, 自己実現)を促進していくプログラムが用意され, 親からの評判がきわめて高い。ほとんどの親は, 近隣の児童館等も訪問しており, なぜ, 0123吉祥寺を利用するかとの間に対して, ①「きれいである」, ②「安全性への配慮が行き届いている」, ③「あまり管理的ではない」, などの理由を掲げている。また, 自宅から徒歩10分位の場所に子育てコミュニティが欲しいという希望も多い。

2)この武蔵野市立0123吉祥寺は, 根拠法がなく, 武蔵野市独自の事業である。首長の考え次第で, このような利用者にきわめて評価の高い施設が作れるという意味でも全国的なモデルとなる。

3)東大阪家庭児童相談室の実践は, 市区町村レベルにおける保健と福祉の一つのモデルとして注目される。対象者の親と子は健診で援助が必要と判断された親子であるが, 問題の重度化, 深刻化を防いで行く上で大きな成果をあげている。

4)家庭児童相談室はややもするとカウンセリング等の個別相談のプログラムが中心になりやすいが, 東大阪家庭児童相談室の実践のように, グループ・ワーク, コミュニティ・ワーク等のソーシャルワーク実践が今後はもっと取り入れられる必要がある。そのためには, 力量をもったソーシャルワーカーをどう市区町村に配置していくかが大きな課題である。

2. 保育所における「社会的に援助の必要な子どもの調査」

2-1 調査設計

調査の目的: 子どもへの不適切な関わり

(マルトリートメント)が社会的に問題になりつつある。だが, 多くの場合, 問題に気づきつつもそのままになり, 社会的な援助機関へのレファラーがなされていない場合が多い。そこで本調査では, 園長, 主任保育, 保育から見て何らかの社会的に援助の必要な子どもを把握し, その子どもや親にどのような援助や専門家へのレファラーが行われているかを把握することを目的として調査を実施した。

調査対象:

神奈川県内の民間保育所29カ所を対象とし, 通所している子どものなかで以下に該当する場合に調査対象児とした。

調査対象児:

保育の日常の保育をとおして, ①子ども自身のこと, ②他の子どもとの関係, ③保育との関係, ④保護者との関係で, ①行動, ②服装, ③言葉づかい, ④他者との関わり, ⑤身体的な異常(けがやあざなど)などの点で, 不適切な関わりが疑われる状態の子どもを対象児とする。

調査票の記入説明で「不適切な関わり」を「不適切な養育, 無関心, 怠慢, 虐待等」と定義し, 家庭などでそのような状態におかれていると疑われる子どもを「調査対象児」とした。

方法:

調査は「乳幼児の行動に関する調査—社会的に援助の必要な子どもの調査—」という標題で, 平成8年1月, 調査票への自計式による郵送法でおこなった。

調査対象保育所において保育(所長も

含む)が該当児ごとに調査票へ記入し、保育所単位で返送してもらった。

調査票の構成:

調査項目は以下の構成である。

- 1) 対象児の保育所における①子ども自身のこと, ②他の子どもとの関係, ③保母との関係, ④保護者との関係別に, ①行動, ②服装, ③言葉づかい, ④他者との関わり, ⑤身体的な異常(けがやあざなど)に関して不適切な関わりが疑われる具体的内容を記述した単文を提示し, 該当する程度を「全くない」「ある」「よくある」「わからない」から選択する。
- 2) 精神的身体症状, 身体的外傷に関する該当項目。
- 3) 対象児の様態に関する, 保育所内での相談・協議, 保護者, 児童相談所, 保健所, 病院, 児童委員・民生委員, 施設などとの相談・連絡の有無。
- 4) 対象児の家庭状況。
- 5) 不適切な関わりを疑った理由。
- 6) 回答者の職種, 経験年数。

2-2 調査結果

回答数:

合計 29 保育所から回答があり, そのうち 7 か所は「該当児なし」との回答を得た。「社会的に援助の必要な子ども」は 22 か所の保育所で 123 人であった。保育所の規模に差異はあるが, それぞれの保育所ごとの回答数は以下のとおりである。

10人(4カ所), 9人(1カ所), 8人(1カ所), 7人(2カ所), 6人(3カ所), 5人(2カ所), 4人(3カ所), 3人(2カ所), 2人(2カ所), 1人(2カ所)

1) 「不適切な関わり」を疑った契機

「不適切な関わりがあると考えられるようになったきっかけ」(複数回答)では, 「親などの不適切な関わりを見た」が 42. 3% (52) と最も多く, 次いで, 「子どもの精神的な変調に気づいた」37. 4% (46), 「子どもの生活面での変化に気づいた」, 31. 7% (39), 「子どもの話などから親などの不適切な関わりを知った」15. 4% (19), 「子どもの身体的な異常などを見つけた」13. 8% (17), 「親から子どものことで相談があった」13. 8% (17) などの順となっている。

3) 保護者, 他機関との相談・連絡

「子どものことで, 次のような人と話し合ったり, 機関などに相談や連絡をしましたか」と対応について聞いたところ, 「母親」67. 5% (83) が最も多く, 「保育所内で相談・協議」48. 8% (60), 「その他」13. 0% (16), 「父親」8. 9% (11), 「祖父母」6. 5% (8), 「児童相談所」と「何もしなかった」がともに 5. 7% (7), 「保健所」4. 9% (6), 「施設の療育相談」2. 4% (3), 「病院」1. 6% (2), 「児童委員」0. 8% (1) で順であった。特に注目されるのは「母子健康センター」, 「家庭児童相談室」, 「主任児童委員」が無回答であったことである。

4) 対応後の状態改善

「対応の結果子どもの状態が改善されたか」について, 「改善された」と「改善されなかった」がともに 35. 8% (44) で, 次いで「その他」15. 4% (19) などとなっている。

5) 不適切な関わりが疑われる状態

対象児が不適切な関わりを受けていることが考えられる行動や状態の程度に関する回答結果を表1から表5にあらわした。

そのうち、おとなによる当該行為が明確に疑われる項目について、「ある」「よくある」の割合をまとめた結果は以下のとおりであった。

①本児の日常の様子

「薄汚れた着衣をしている」37.4% (46), 「何日も入浴をしていない形跡が見られる」28.5% (35)と明確なネグレクトが3割から4割認められている。さらに、「極端なおびえが認められる」40.6% (50), 「表情がとぼしい」41.4% (51)である。実数は少ないものの性的虐待が疑われる「異性のおとなを極端に恐がる」は4.1% (5)の回答があった。

②他の子どもとの様子

「言葉使いが気になる(ぶっ殺すぞなど)」が36.5% (45)で、マスメディアの影響も考えられる一方、本児自身が日常親などに言われている可能性がある。また、因果関係は特定できないが、「集団から離れて一人であることが多い」は68.3% (84)と高い割合で認められている。

③保母との関係

「過度に緊張し、保母と視線が合わせられない」37.4% (46), 「保母の顔色をうかがう」62.6% (77)が対象児の特徴となっている。他に「身体に触れられるのを嫌がる」15.4% (19), 「子どもが自分や親のことを話したがる」17.9% (22)。

④保護者との関係

「なかなか家に帰りたがらない」34.1% (42), 「親の顔色をうかがう」43.1% (5

3), 「親に小言を頻繁に言われている」43.1% (53), 「目にあまる厳しいしつけをしている」14.6% (18), 「『また』『いつも』と言動を否定的に注意する」42.2% (52), 「『ばか』『のろま』など否定的な言葉を言う」25.2% (31)。

「しつけ」行為は「不適切な関わり」を論じる上で重要な論点を含んでいると思われるが、第三者からみて明らかに不適切な行為や言動をおとなから受けている対象児は少なくない。

⑤精神身体症状・身体的外傷の有無

「情緒不安定である」が39.0% (48)と最も該当する割合が高い。不適切な関わりがより疑われるものとして、「マスターベーションがある」8.1% (10), 「不自然な骨折が見られた」0.8% (1), 「不自然なあざが見られる」9.8% (12), 「不自然な火傷が見られる」3.3% (4)。

身体的な状態に関しては、少数であるが明確な外傷が認められている。

2-3 考察

1. 調査結果から明かのように、保育所では「気になる子ども」について親や保育所内で相談・協議はしているものの、外部の専門機関等へのレファラーは積極的には行われていない。また、子どもの状態が改善されたかについては、「改善された」と「改善されなかった」がともに35.8% (44)である。特に、改善されなかった子どもへの対応が考慮されなければならない。

2. 今後市区町村における保健と福祉の連携を考える場合「子どもへの不適切な関わり」(マルトリートメント)の早期発見、問題行動の重度化、深刻化を防ぐために

も保育所(ケア系ヒューマン・パワー)とソーシャルワーク系, 保健・医療系のヒューマン・パワーのネットワークをどう構築するか
の検討が急がなければならない。

3. また, 子どもへの対応のみならず, 親へのサービス(親性を高めるためのグループ・カウンセリングなど)が準備されなければならない。つまり, 子ども家庭サービス(child and family services), 子どもへのサービス, 親へのサービスの制度化が必要である。

4. 特に, ネグレクトの場合, 親が無意識で行っていることが多い。子どもの権利条約第19条の「子どもへの虐待・ネグレクト」等について具体的な事例を紹介し, 親に対する教育・啓発活動が積極的に展開されることが期待される。

5. 子どもの権利条約については, 教育委員会を通して小学校・中学校・高等学校の児童生徒にはさまざまな啓発活動が行われている。だが, 保育園児, 幼稚園児の親に対する啓発活動は必ずしも積極的には行われていない。例えば, 保健と福祉の連携活動の一つとして, 保育園児, 幼稚園児の親向けのハンドブックを作成し, 親に配布するなどの事業が期待される。

表1 対象児の様態（本児の日常の様子から）

| | わからない | 全くない | ある | よくある | 無回答 | 合計 |
|--------------------|-------|-------|-------|-------|------|--------|
| いつもおなかをすかしている | | | | | | |
| 回答数 | 13 | 65 | 32 | 10 | 3 | 123 |
| % | 10.6% | 52.8% | 26.0% | 8.1% | 2.4% | 100.0% |
| 食べの好き嫌いが多い | | | | | | |
| 回答数 | 1 | 42 | 51 | 28 | 1 | 123 |
| % | .8% | 34.1% | 41.5% | 22.8% | .8% | 100.0% |
| 薄汚れた着衣をしている | | | | | | |
| 回答数 | 1 | 75 | 31 | 15 | 1 | 123 |
| % | .8% | 61.0% | 25.2% | 12.2% | .8% | 100.0% |
| 何日も入浴をしていない形跡が見られる | | | | | | |
| 回答数 | 12 | 76 | 23 | 12 | | 123 |
| % | 9.8% | 61.8% | 18.7% | 9.8% | | 100.0% |
| 爪がのびて汚れている | | | | | | |
| 回答数 | 3 | 63 | 47 | 10 | | 123 |
| % | 2.4% | 51.2% | 38.2% | 8.1% | | 100.0% |
| 登園時に頭がぼさぼさしている | | | | | | |
| 回答数 | 3 | 53 | 49 | 17 | 1 | 123 |
| % | 2.4% | 43.1% | 39.8% | 13.8% | .8% | 100.0% |
| 何事にも意欲が乏しく、集中できない | | | | | | |
| 回答数 | 7 | 35 | 49 | 30 | 2 | 123 |
| % | 5.7% | 28.5% | 39.8% | 24.4% | 1.6% | 100.0% |
| 極端なおびえが認められる | | | | | | |
| 回答数 | 9 | 64 | 42 | 8 | | 123 |
| % | 7.3% | 52.0% | 34.1% | 6.5% | | 100.0% |
| 落ちつきがない | | | | | | |
| 回答数 | 5 | 29 | 41 | 47 | 1 | 123 |
| % | 4.1% | 23.6% | 33.3% | 38.2% | .8% | 100.0% |
| 表情がとぼしい | | | | | | |
| 回答数 | 6 | 63 | 34 | 17 | 3 | 123 |
| % | 4.9% | 51.2% | 27.6% | 13.8% | 2.4% | 100.0% |
| 物や物事にこだわりが見られる | | | | | | |
| 回答数 | 9 | 36 | 44 | 32 | 2 | 123 |
| % | 7.3% | 29.3% | 35.8% | 26.0% | 1.6% | 100.0% |
| 気になるほど独り言を言っている | | | | | | |
| 回答数 | 10 | 74 | 26 | 12 | 1 | 123 |
| % | 8.1% | 60.2% | 21.1% | 9.8% | .8% | 100.0% |
| 赤ちゃん返りしている | | | | | | |
| 回答数 | 11 | 69 | 30 | 10 | 3 | 123 |
| % | 8.9% | 56.1% | 24.4% | 8.1% | 2.4% | 100.0% |
| 年齢不相応な幼稚語が見られる | | | | | | |
| 回答数 | 10 | 77 | 20 | 14 | 2 | 123 |
| % | 8.1% | 62.6% | 16.3% | 11.4% | 1.6% | 100.0% |
| 異性の大人を極端に恐がる | | | | | | |
| 回答数 | 13 | 104 | 4 | 1 | 1 | 123 |
| % | 10.6% | 84.6% | 3.3% | .8% | .8% | 100.0% |
| 動物いじめをする | | | | | | |
| 回答数 | 25 | 86 | 8 | 1 | 3 | 123 |
| % | 20.3% | 69.9% | 6.5% | .8% | 2.4% | 100.0% |
| 連絡もなく登園してこない | | | | | | |
| 回答数 | 1 | 81 | 25 | 14 | 2 | 123 |
| % | .8% | 65.9% | 20.3% | 11.4% | 1.6% | 100.0% |

| | | | | | | |
|-------|-----|-------|-------|-------|-------|--------|
| 遅刻が多い | | | | | | |
| 回答数 | 1 | 70 | 27 | 21 | 4 | 123 |
| % | .8% | 56.9% | 22.0% | 17.1% | 3.3% | 100.0% |
| その他 1 | | | | | | |
| 回答数 | | | 3 | 19 | 101 | 123 |
| % | | | 2.4% | 15.4% | 82.1% | 100.0% |
| その他 2 | | | | | | |
| 回答数 | | | 2 | 6 | 115 | 123 |
| % | | | 1.6% | 4.9% | 93.5% | 100.0% |

表 2 対象児の様態（他の子どもとの様子から）

| | わからない | 全くない | ある | よくある | 無回答 | 合計 |
|--------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 他の子どもに比べてずいぶん 幼い感じがする | | | | | | |
| 回答数 | 5 | 38 | 50 | 28 | 2 | 123 |
| % | 4.1% | 30.9% | 40.7% | 22.8% | 1.6% | 100.0% |
| 集団から離れて一人でいる ことが多い | | | | | | |
| 回答数 | 7 | 30 | 50 | 34 | 2 | 123 |
| % | 5.7% | 24.4% | 40.7% | 27.6% | 1.6% | 100.0% |
| 自分より年下の子どもと多 く遊ぶ | | | | | | |
| 回答数 | 15 | 70 | 20 | 15 | 3 | 123 |
| % | 12.2% | 56.9% | 16.3% | 12.2% | 2.4% | 100.0% |
| 子ども同士の対等な関係をも てない | | | | | | |
| 回答数 | 12 | 39 | 42 | 25 | 5 | 123 |
| % | 9.8% | 31.7% | 34.1% | 20.3% | 4.1% | 100.0% |
| 他の子どもに威圧的に振る 舞う傾向が強い | | | | | | |
| 回答数 | 10 | 58 | 33 | 19 | 3 | 123 |
| % | 8.1% | 47.2% | 26.8% | 15.4% | 2.4% | 100.0% |
| 被害者的な意識が強い | | | | | | |
| 回答数 | 8 | 46 | 40 | 27 | 2 | 123 |
| % | 6.5% | 37.4% | 32.5% | 22.0% | 1.6% | 100.0% |
| 攻撃的な行動が目立つ | | | | | | |
| 回答数 | 2 | 51 | 36 | 30 | 4 | 123 |
| % | 1.6% | 41.5% | 29.3% | 24.4% | 3.3% | 100.0% |
| 言葉使いが気になる（ぶつ 殺すぞなど） | | | | | | |
| 回答数 | 10 | 67 | 26 | 19 | 1 | 123 |
| % | 8.1% | 54.5% | 21.1% | 15.4% | .8% | 100.0% |
| その他 1 | | | | | | |
| 回答数 | | | 3 | 9 | 111 | 123 |
| % | | | 2.4% | 7.3% | 90.2% | 100.0% |
| その他 2 | | | | | | |
| 回答数 | | | 2 | 1 | 120 | 123 |
| % | | | 1.6% | .8% | 97.6% | 100.0% |

表3 対象児の様態（保母との関係から）

| | わからない | 全くない | ある | よくある | 無回答 | 合計 |
|--------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 過度に緊張し、保母と視線 が合わせられない | | | | | | |
| 回答数 | 4 | 72 | 34 | 12 | 1 | 123 |
| % | 3.3% | 58.5% | 27.6% | 9.8% | .8% | 100.0% |
| 保母の顔をうかがう | | | | | | |
| 回答数 | 2 | 43 | 66 | 11 | 1 | 123 |
| % | 1.6% | 35.0% | 53.7% | 8.9% | .8% | 100.0% |
| 保母に対して反抗的である | | | | | | |
| 回答数 | 6 | 68 | 41 | 7 | 1 | 123 |
| % | 4.9% | 55.3% | 33.3% | 5.7% | .8% | 100.0% |
| 保母と接触を避けようとする | | | | | | |
| 回答数 | 4 | 94 | 21 | 3 | 1 | 123 |
| % | 3.3% | 76.4% | 17.1% | 2.4% | .8% | 100.0% |
| 身体に触れられるのを嫌がる | | | | | | |
| 回答数 | 3 | 101 | 17 | 2 | | 123 |
| % | 2.4% | 82.1% | 13.8% | 1.6% | | 100.0% |
| 子どもが自分や親のことを 話したがらない | | | | | | |
| 回答数 | 25 | 71 | 20 | 2 | 5 | 123 |
| % | 20.3% | 57.7% | 16.3% | 1.6% | 4.1% | 100.0% |
| 余りにも素直すぎる | | | | | | |
| 回答数 | 20 | 69 | 27 | 4 | 3 | 123 |
| % | 16.3% | 56.1% | 22.0% | 3.3% | 2.4% | 100.0% |
| 用事がなくても保母のそば にいたがる | | | | | | |
| 回答数 | 7 | 51 | 46 | 17 | 2 | 123 |
| % | 5.7% | 41.5% | 37.4% | 13.8% | 1.6% | 100.0% |
| 保母が注意しても言うこと をきかない | | | | | | |
| 回答数 | 4 | 35 | 61 | 19 | 4 | 123 |
| % | 3.3% | 28.5% | 49.6% | 15.4% | 3.3% | 100.0% |
| その他 1 | | | | | | |
| 回答数 | | | 6 | 12 | 105 | 123 |
| % | | | 4.9% | 9.8% | 85.4% | 100.0% |
| その他 2 | | | | | | |
| 回答数 | | | 1 | 2 | 120 | 123 |
| % | | | .8% | 1.6% | 97.6% | 100.0% |

表4 対象児の様態（保護者との関係から）

| | わからない | 全くない | ある | よくある | 無回答 | 合計 |
|--------------|-------|-------|-------|-------|------|--------|
| なかなか家に帰りがらない | | | | | | |
| 回答数 | 2 | 78 | 31 | 11 | 1 | 123 |
| % | 1.6% | 63.4% | 25.2% | 8.9% | .8% | 100.0% |
| 親の顔をうかがう | | | | | | |
| 回答数 | 11 | 59 | 38 | 15 | | 123 |
| % | 8.9% | 48.0% | 30.9% | 12.2% | | 100.0% |
| 親から離れたがらない | | | | | | |
| 回答数 | 3 | 53 | 54 | 11 | 2 | 123 |
| % | 2.4% | 43.1% | 43.9% | 8.9% | 1.6% | 100.0% |
| 親に甘えない | | | | | | |
| 回答数 | 19 | 82 | 16 | 5 | 1 | 123 |
| % | 15.4% | 66.7% | 13.0% | 4.1% | .8% | 100.0% |

| | | | | | | |
|---------------------------|-----------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 親子にしてはよそよそしい 感じがする | 回答数 10 | 79 | 26 | 7 | 1 | 123 |
| % | 8.1% | 64.2% | 21.1% | 5.7% | .8% | 100.0% |
| 親に小言を頻繁に言われて いる | 回答数 14 | 50 | 25 | 28 | 6 | 123 |
| % | 11.4% | 40.7% | 20.3% | 22.8% | 4.9% | 100.0% |
| 親が迎えに来てもしらす行 為がある | 回答数 5 | 67 | 35 | 16 | | 123 |
| % | 4.1% | 54.5% | 28.5% | 13.0% | | 100.0% |
| 子どもが飛び込もうとして もよける感じである | 回答数 14 | 76 | 26 | 6 | 1 | 123 |
| % | 11.4% | 61.8% | 21.1% | 4.9% | .8% | 100.0% |
| 目にあまる厳しいしつけを している | 回答数 17 | 86 | 15 | 3 | 2 | 123 |
| % | 13.8% | 69.9% | 12.2% | 2.4% | 1.6% | 100.0% |
| 「また」「いつも」と言動 を否定的に注意する | 回答数 23 | 44 | 33 | 19 | 4 | 123 |
| % | 18.7% | 35.8% | 26.8% | 15.4% | 3.3% | 100.0% |
| 「ばか」「のろま」など否 定的な言葉を言う | 回答数 23 | 67 | 16 | 15 | 2 | 123 |
| % | 18.7% | 54.5% | 13.0% | 12.2% | 1.6% | 100.0% |
| 母親の子どもに対する依存 度が高い | 回答数 35 | 51 | 24 | 8 | 5 | 123 |
| % | 28.5% | 41.5% | 19.5% | 6.5% | 4.1% | 100.0% |
| 母親の子どもに対する期待 感が高い | 回答数 38 | 46 | 23 | 12 | 4 | 123 |
| % | 30.9% | 37.4% | 18.7% | 9.8% | 3.3% | 100.0% |
| その他 1 | 回答数 3 | | 10 | 110 | | 123 |
| % | | | 2.4% | 8.1% | 89.4% | 100.0% |
| その他 2 | 回答数 2 | | | 121 | | 123 |
| % | | | | 1.6% | 98.4% | 100.0% |

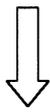
表5 精神的身体症状・身体的外傷の有無（複数回答）

| | 該当 | 非該当 | 合計 |
|---------------|-------|--------|--------|
| 情緒不安定である | | | |
| 回答数 | 48 | 75 | 123 |
| % | 39.0% | 61.0% | 100.0% |
| 脱毛（円形脱毛症等）がある | | | |
| 回答数 | 1 | 122 | 123 |
| % | .8% | 99.2% | 100.0% |
| 抜毛がある | | | |
| 回答数 | 1 | 122 | 123 |
| % | .8% | 99.2% | 100.0% |
| ひきこもりがある | | | |
| 回答数 | 17 | 106 | 123 |
| % | 13.8% | 86.2% | 100.0% |
| つめかみがある | | | |
| 回答数 | 19 | 104 | 123 |
| % | 15.4% | 84.6% | 100.0% |
| どもりがある | | | |
| 回答数 | 13 | 110 | 123 |
| % | 10.6% | 89.4% | 100.0% |
| チェックがみられる | | | |
| 回答数 | 7 | 116 | 123 |
| % | 5.7% | 94.3% | 100.0% |
| 多動である | | | |
| 回答数 | 36 | 87 | 123 |
| % | 29.3% | 70.7% | 100.0% |
| 憤怒けいれんがある | | | |
| 回答数 | | 123 | 123 |
| % | | 100.0% | 100.0% |
| マスターベーションがある | | | |
| 回答数 | 10 | 113 | 123 |
| % | 8.1% | 91.9% | 100.0% |
| その他1 | | | |
| 回答数 | 24 | 99 | 123 |
| % | 19.5% | 80.5% | 100.0% |
| その他2 | | | |
| 回答数 | 4 | 119 | 123 |
| % | 3.3% | 96.7% | 100.0% |
| 不自然な骨折が見られた | | | |
| 回答数 | 1 | 122 | 123 |
| % | .8% | 99.2% | 100.0% |
| 身長が伸びない | | | |
| 回答数 | 3 | 120 | 123 |
| % | 2.4% | 97.6% | 100.0% |
| 体重の増加が不良である | | | |
| 回答数 | 6 | 117 | 123 |
| % | 4.9% | 95.1% | 100.0% |
| 不自然なあざが見られる | | | |
| 回答数 | 12 | 111 | 123 |
| % | 9.8% | 90.2% | 100.0% |
| 不自然な火傷が見られる | | | |
| 回答数 | 4 | 119 | 123 |
| % | 3.3% | 96.7% | 100.0% |
| その他1 | | | |
| 回答数 | 7 | 116 | 123 |
| % | 5.7% | 94.3% | 100.0% |
| その他2 | | | |
| 回答数 | 1 | 122 | 123 |
| % | .8% | 99.2% | 100.0% |



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 :本研究は市町村における保健と福祉の連携を促進するための諸課題を明らかにしようとするものである。第 2 年度の今年は、保健サービスとヒューマンサービスのあり方に焦点をあてリサーチを実施した。ヒューマンサービスとは、ソーシャルワーク系ヒューマンパワー(ソーシャルワーカー, 児童福祉司, 家庭児童相談員, 児童指導員, 児童厚生員, 民生委員児童委員, 主任児童委員など), ケア系ヒューマンパワー(保育, 保育ママなど), 心理系ヒューマンパワー(臨床心理職など)によって提供される子どもと親のウェルビーイングの実現をめざす子ども家庭サービス(child and family services)をいう。具体的には、「子どものためのサービス」, 「親のためのサービス」, 「親を通した子どもへのサービス」があり, サービスの種類としては(1) 促進サービス (promotion), (2) 予防サービス (prevention), (3) 支援サービス (support), (4) 援助サービス (help), (5) 保護サービス (protection)などのプログラムが考えられる。

これらのサービスを保健・医療系ヒューマンパワー(医師, 保健婦, 助産婦, 看護婦)とどう連携しつつ提供するかが現状の課題となっている。

そこで, 本研究では, 評価の高い実践事例((1)武蔵野市立 0123 吉祥寺, (2)大阪府東大阪市児童部児童課中福祉事務所家庭児童相談室)の検討, さらに, 保育所における「社会的に援助の必要な子どもの調査」を実施し, これからの課題を考察し, 提言を行った。